

有機栽培施設ピーマンにおける害虫防除



写真1 チャノキイロアザミウマ成虫



写真2 チャノキイロアザミウマによる
生長点の被害

施設ピーマンでは、天敵を中心としたIPM技術の普及により、ミナミキイロアザミウマやタバココナジラミなどの被害を抑えています。しかし、チャノキイロアザミウマ(以下、チャノキ)(写真1)は極低密度でも実被害が発生するため天敵での防除対策が難しく、農薬による防除対策が主となっています。

今回は、チャノキの被害防止のため、0.6mm目赤色防虫ネット、スワルスキーカブリダニ、タバコカスミカメおよび有機JAS適合農薬であるスピノエース顆粒水和剤を組み合わせた農業技術センター内での実証試験について紹介します。

チャノキは、ほぼ栽培期間を通じて発生が見られ密度が上昇した2月には被害果率が50%に達しました(図1、2)。さら

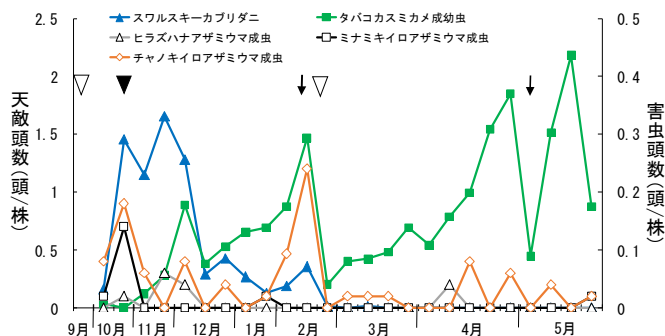


図1 アザミウマ類・天敵類の推移

注) 図中の↓は薬剤散布、↑はスワルスキーの放飼、▼はタバコカスミカメの放飼を示す。
↓: 2025年2月21日、5月8日; スピノエース顆粒水和剤(5,000倍希釈)
↑: 2024年9月18日、2025年2月26日; 50,000頭/10a相当量
▼: 2024年10月22日; 1頭/2株

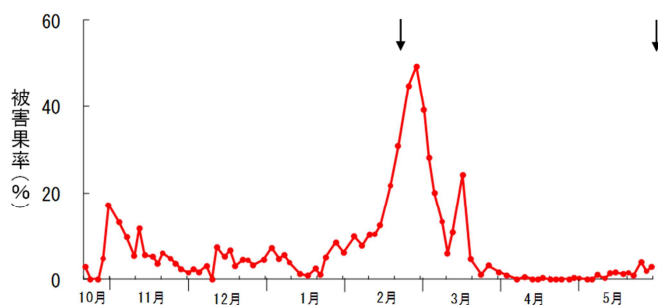


図2 チャノキイロアザミウマ被害果率の推移

注) 被害果率: チャノキイロアザミウマ被害果数/(可販果数+チャノキイロアザミウマ被害果数)×100
調査期間: 2024年10月21日~2025年5月30日
↓: 2025年2月21日、5月8日; スピノエース顆粒水和剤(5,000倍希釈)

に生長点の被害も見られましたが、スピノエース顆粒水和剤による防除により、4~5月には果実被害もほとんど見られなくなりました(写真2、図2)。

チャノキに対するスピノエース顆粒水和剤の防除効果は高いですが、総使用回数は2回以内です。次作では使用時期、ネット目合い等についても検討します。

また、生産現場ではモトジロアザミウマ、カイガラムシ類などが発生するほ場も見られることから、クロヒョウタンカスミカメ、ヒメカメノコテントウ導入なども含め有機JASに適合した害虫防除技術の確立に取り組んでいきます。

(昆虫担当 矢野稜人 TEL088-863-4915)